
桜咲く頃、僕たちは。

時雨刻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜咲く頃、僕たちは。

【Nコード】

N4058A

【作者名】

時雨刻

【あらすじ】

普通の男子中学生・良の所にやってきた男は魔法使いで…！？

第一話*始まり

今日は、いつになく教室の中が騒がしかった。

そりゃあもう騒がしいどころじゃないよ。何が沸騰してるんだ？てな感じ。

今日はテストの日。

皆

「勉強してないよ」

って言うけどさ、してるんだよね、これが。

してないって言う人ほどしてるんだ。俺よく知ってる。

まあ、俺にとってみればそんな事はどうでもいい事で……

「あーあ。テストなんて別にどうでもいいんだけどな」

俺はポツリと呟いた。

ま、受験生だから仕方ないだろうけど。

だからってこうもテストテストじゃ、気がめいっちゃうよ、ホント。

「何がそんなに不服なんだ？」

不服とかじゃなくてさ、テストなんていらなと思う。

つか、ホント、学生の本分は勉強とか誰が抜かしやがったんですか……。

……………。

い、今どこから声がした？

俺は恐る恐る振り返った。

「ぎゃああああああつ」

振り返ると同時に、俺は椅子ごと転んだ。

窓外に男が立って いや、浮いていたんだから仕方ない。

転んだだけですんでよかつたよ。普通なら気絶するぞ？

バコバコと高鳴っている心臓を抑えながら、俺は叫んだ。

「なっ？お前……誰だっ？」

「魔法使いだが？」

オイオイオイオイオイ……。。

今時魔法使いなんか信じるやつがいると思うか？冗談もほどほどにしるよな。

浮いてるのだって、絶対何かトリックが……。

思ってからはずとする。

ここ 4 階 だ っ た 。

しかも命綱とか付けてねええ！！俺はどう反応すりゃあいいんだがあああ！！

頭を両手で抱えて悶絶する俺に、親友の高が声をかけてきた。

「良、どーしたんだよ？テストが嫌でいかれちまったのか？」

「いかれるかッ！窓見ってみる窓！」

「はあ？窓？」

「窓だっつってんだろ！M・A・D・O・窓だ！英語でウィンドウだッ！」

必死になって言う俺を、高は不思議そうにみた。

「ほ、本当に大丈夫……か？」

「大丈夫だったらこんなこと言うか！窓だ窓！！」

どうリアクションすればいいのかわから無くなったらしく、高はひよいと身をあげて窓を見た。

「いい天気だな」

「俺が言いたいのはそんな事じゃねえええ！！お前もつと他に気にする事があるだろーがっ！！！！！！」

俺は高にとつつとケリを入れた。

「いや……。別に何も無いし。……お前大丈夫か？」

見えてねえ！？

俺はクラリと眩暈をおこした。

イヤイヤイヤ待て待て。

現代科学に証明できねえモンはねえんだ。そう、たとえ人が宙に浮いていようと……。

俺はきどつて机に手をつき、どうにか解明できねえもんかと頭を悩ませた。

「無理だああああ！！現代科学もここまでかーッ！」

意味不明なことを言い出した俺は、高に見放されてしまった。

高は、

「頑張れよ」

と、俺の肩をぽんと叩き自分の席へ行ってしまった。

ヤメヤメー！俺を一人にしないでくれ高ああ。現代科学のピンチ

っつーかまず俺のピンチなんだよおお。

「面白いな」

高みの見物をしてやがった

「そいつ」

を、俺は青くなりながら見つめた。

「阿呆！誰が面白いんだよツ！お、お前さてはアレか！？スパイか！？はっ、密偵か！？それとも警察！？」

「……普通の人間が命綱もなしに浮くと思つほど、お前は馬鹿者か？」

馬鹿者じゃねえよ！今からテストに挑もうとしてる受験生にそういうこと言つなっ！不吉な！！！！

「てことは……お前エンジェルか？？」

「魔法使いだといっているだろう……？」

だいたい翼が無いだろうが、とそいつは呟いた。
わ、分かつてるけど……。

魔法使いなんて非現実的な話信じられるかあああ！！！！

「……良君、変よね」

「ばかつ。みない方がいいわよ」

一部の女子が俺の事を噂している。

ああそうさ。俺は変さ。っーか変にもなるだろうよ！

何とでもいえコンチキショー！！！！

「俺は変じゃねえ！変人だ！文句あるかこの野郎！」

きつと睨みつけながら、俺は言った。

俺の悪口をたたいていた女子は、コソコソとどこかに隠れていった。

あーあ、変人確定だよ。ふふふふふ。

その日のテストは多分、史上最悪の点数だろう。

そーだった。現実逃避なんてしてる場合じゃねえ。

「わかったから……おろせ」

「おーそうか」

俺はドサリと地面に落とされた。

「で……お前の名前は？」

俺はぬけたことを言ってしまった。やつはぶっとふきだした。

あああくっそくっそー!!!

こいつマジで嫌いだああ!!!

「俺の名前は、コー。お前の願いをかなえにきた」

ね が い だあ？

「俺は修行中の身だからな。誰かの願いをうつかなえるのが今回の試練なんだ。で、お前が選ばれた」

そんな試練だすんじゃないやねーッ！誰だそんな無茶苦茶な試練出したのはー！

「願い」

俺はポツリと呟いた。

「そうだ。何か無いか？」

「一個目の願い。消える。二個め。去れ。三個目。いなくなれ」

俺は早口で言った。

やつは コーというらしいが 目を見開いて俺を見た。

「あーそれ駄目。それは無理。他に何か無いか？」

「ねえよ！！俺の今かなえたい願い事ベストスリーがこれなんだぞ
!?!」

「わがままなやつだ」

「どつちがだよ!!!」

コーは、半切れの俺の肩にぽんと手を置いて、グツと親指を見せた。

あ。やばい。俺の中で何かが切れた。

「わけわかんねえ爽やかにーちゃんしてんじゃねえ ツ!!」

どんがらがっしょん。

もうすぐ夜明けだ。眠い……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4058a/>

桜咲く頃、僕たちは。

2010年10月9日21時56分発行